



岩澤信夫さんと不耕起田の実践地見学会

現地集合、解散

日時：2009年11月15日(日) 10:00 開始(約1時間半程度)

会場：(有) 甘原ええのお さんの田んぼ (〒507-0046 岐阜県多治見市甘原町251-1)

(注: 田んぼの生きもの採取はお断りします)

tel.fax 0572-23-7863 mail:info@tunduhara.com URL:<http://tunduhara.com/>

耕さない田んぼのお米



冬期湛水・不耕起栽培で農薬を使わないイネづくりを始めて初めて7年目です。

NHKのテレビを見て日本不耕起栽培普及会に入会しました。自分達にもこんなイネづくりが出来るのだろうか、出来るのなら是非この農法でやってみたいというのが、はじまりです。

その翌春早くからすぐに冬期湛水に取り組み、美味しいおコメができることがわかりました。

自然耕塾に通い勉強し、平成16年には不耕起栽培研修会と生きもの調査を行いました。

また平成17年には岩澤先生を招いて講演会、現地視察を実施しました。静かな山に囲まれた田畑から、生きものいっぱいの里山を守っています。

栽培品種はコシヒカリです。

冬期湛水・不耕起栽培で農薬を全く使わない栽培5年目の田んぼの生きものトラストは20口限定です。育苗で化学肥料少量使用。

詳細は『田んぼ博士の応援隊』「本物のお米を食べたい」をご覧ください。

また、京銘菓、ハツ橋「京の福」は不耕起栽培米を使用いただいています。

いちご

1月上旬~5月下旬

天敵農法に取り組み農薬使用量を30%以上削減

天敵農法とは 害虫を食べて生きている昆虫や微生物(天敵)を利用して害虫を防除する農法です。

防除の一部を天敵に肩代わりさせることで科学農薬の散布回数が軽減できます。

抵抗性害虫が出ると、多種類の農薬を組み合わせで防除しなければなりません。天敵は抵抗性の有無に効果が左右されません。

本来あるべき生態系を利用しますので人と自然にやさしい農法です。

ブルーベリー観光農園

7月下旬～9月上旬

集落内の農地面積の約6割を占める畑地の活用について、(有)甘原営農では各種果樹の導入を検討したが、やせた硬い山土という土質条件、近隣には果樹の産地も無いなど技術的、販売的な問題からなかなか導入が進まなかった。こうしたなかで、ブルーベリーの栽培が各地域で始まり話題となりつつあったことから、石川県の先進的栽培地への視察を行なった。その産地では木材チップを利用した栽培を行っており、その栽培方法を参考に、地域内にある林業業者が生産する木材チップ堆肥を活用することにより、土質の悪い畑地での栽培が可能となり、平成14年には約2,000本の苗を定植し、その後、栽培面積の拡大(現在2ha)と栽培技術の向上を図っている。さらに、都市近郊に位置する立地条件を活かし、ブルーベリーの摘み取り体験園を平成17年から開園している。

また、天候等による開園時期の遅れや、開園期間が1ヶ月程度と短いなど問題はあものの、来場者は増加しつつあり、ジャム作り体験の企画、開催、マスコミへの積極的な情報提供を通じて都市住民との交流の促進を図っている。

(東海農林事務所「平成19年度豊かなむらづくり優良事例推薦調書」よりブルーベリー項抜粋)

会社案内

設立の趣旨 平成10年に50軒の集落の内、38名の農家全員が株主になり、農地を集約して一括営農をする有限会社を設立しました。

都市化が進んでいる周辺地域では味わう事ができない、農村らしさが残る里山の景観と環境を次の世代に引き継ぐことができるようにと頑張っています。

生産者の顔が見える、地産地消型農業を目指して 低農薬、減化学肥料による安全で安心な農産物にこだわっております。

会社概要

| | |
|------|---|
| 会社名 | (有)甘原ええのお |
| 住所 | 岐阜県多治見市甘原町251-1 |
| 設立 | 平成10年3月 |
| 代表者 | 山田 照次 |
| 事業内容 | イチゴ栽培、水稲、ブルーベリー観光農園、 トウモロコシ、ブロッコリー 他 |

